

平成26年8月 全員協議会

平成26年8月20日（水曜日）

東京電力(株)代表執行役社長 廣瀬直己 氏



※ [全員協議会について](#) [東京電力説明資料](#)

東京電力（株）代表執行役社長

東京電力（株）の廣瀬である。本日は県議会全員協議会において説明の機会を与えてもらい感謝する。

平成23年3月11日の原発事故から間もなく3年半が経過しようとしているが、このような長きにわたり、発電所周辺にお住まいの方はもちろん、広く福島県民の方々に大変な迷惑、心配、不便をかけていることに対し、改めてこの場をかりておわびする。本当に申しわけない。

本日は平出議長から発言があったとおり、いろいろな質問に対し精いっぱい説明していきたいと思う。せっかくの機会なので、昨年9月以降、我々にいろいろな動きがあった中で、最近の動きを何点か説明する。

まず一つは、皆様に大変心配をかけている福島第一原発の状況である。

承知のとおり、ことし4月1日に福島第一廃炉推進カンパニーを設置した。カンパニーのトップには、震災当時、福島第二原発の所長で、何とか安定的に第二原発の運営を行った増田を据えた。増田のもと、現地でいろいろな判断を迅速に責任を持って対応できるようスタートしている。とはいえ、まだまだ心配をかけるような事象が発生しており、そのたびにこれから帰還を計画されている方々に「こんなことでは・・・」とちゅうちょされてしまうようなことが起きていると承知している。こうしたことを少しでも減らしていくべく、最大限の努力をしていく。

一方、少しずつではあるが、前進した取り組みも出てきている。

昨年11月より福島第一原発4号機において、使用済み燃料プールからの使用済み燃料の取り出しが行われている。現在はクレーンの定期点検のため休んでいるが、既に残り350本ほどまで来ている。そのうち180本が新燃料なので、リスクの高い使用済み燃料は170～180本というところまで来ている。その意味では大分リスクは低くなってきていると思う。クレーンの点検が済み次第、9月からまたしっかり行き、11月くらいには全部取り出すという工程をしっかり進めていきたい。

また、漁業関係者の方々に大変難しい決断をしてもらった地下水バイパス、さらにいろいろ説明を進めているサブドレン（地下水をくみ上げ水位等の管理を行うために設置された装置）等、本当に難しいお願いをしているが、そうしたこともしっかり説明する。

昨日の政府の専門家会議でも議論があったが、トレンチ（ケーブル等が通る坑道）を何とか凍らせてトレンチ内の水を抜き、しっかり建屋と遮断して建屋の周りを凍土壁で覆うという工程をしっかり進めていきたい。9割方は凍っているものの、残り1割がなかなか凍らない状態が続いているが、我々は全く諦めていない。まずはしっかり氷の壁をつくる方向でやっていきたい。

また、これから1号機のカバーを取り外していくが、昨年8月の3号機の瓦れき処理の際に、放射性物質が舞い上がるという問題が起きた。この経験をしっかり生かし、1号機のカバー取り外しや瓦れき処理について、本当に慎重に進めていく。もちろん周囲へ放射性物質を飛散させることがあってはならず、近くで作業する作業員への対策もしっかり行っていきたい。

まだまだ長い道のりではあるが、我々の社員も含め、多いときには6,000人以上が作業員として現場に入っている。先ほど平出議長からもあったように、まずはこうした方々にしっかり作業してもらうことが極めて大事なことだと思っている。例えば、放射性物質を少しでも減らし、全面マスクがなくても作業できるエリアをふやすとか、休憩所や給食センターの設置、労務費の割増しなど職場環境を改善し、使命感と責任感を持って働いてもらえる環境づくりに努めていきたい。

賠償については、現在のところ4.2兆円の賠償金が我々から被害者に届いている。まだまだ損害が続いているため、国へは全体で5.4兆円くらい規模になるとの見通しを示している。ちょうど2週間前に国からその額に基づく認定を受けしており、資金的にも十分確保している。5.4兆円という額は、これで終わるということではない。被害が続く以上しっかりこれを賠償していくが、現在のところ、そのくらいになるのではないかとということで手当てしている。いずれにしても被害が残る以上、最後の一人まで賠償を完結することが我々の使命だと思っているので、しっかりやっていきたい。

次に、帰還や地域の復興を進めていくには、賠償だけでは難しい面もある。これは自治体や国の協力をもらいながら進めていかなければならないが、我々社員が汗をかき、やれることがあるのではないかと考えながら取り組んでいる。テレビ等で報道されているので承知かもしれないが、関東地区の東京電力（株）社員が福島を2泊3日または3泊4日で訪問し、草刈りをしたり、冬であれば雪おろしや雪かき、盆の前には墓や家の中の掃除などをやらせてもらっている。今現在で8万9,000人が参加しており、全社員の7割以上が最低1回は参加している。

事故から3年半が経過し、我々が起こしてしまった福島での事故を社内でも風化させてはいけないと思っている。社員には、そうした活動の参加後に感想文を提出させており、私は全てに目を通してしている。福島に行き、時間がとまっている状況に驚き、自分や自分たちの仕事の中でできることはないかと考えるきっかけになっており、今後も続けていきたい。

こうしたことを福島復興本社の石崎代表を中心として行っており、廃炉推進カンパニーと復興本社が両輪となってしっかり進めていく。東京電力（株）社員の基本中の基本として、福島をしっかりと果たすということがある。これから発送電分離など東京電力（株）の周りでもいろいろ出てくるが、東京電力グループのリソース（資源）を集め、しっかりと責任を果たしていく。

本日はいろいろな質問や意見をもらい、東京へしっかり持ち帰って今後の取り組みに生かしていきたいと考えているので、よろしく願う。